

特集

異性装研究の現在

辻 浩和
田村美由紀

異性装研究の現在

神戸女学院大学 文学部 総合文化学科 准教授

栗山 圭子

2023年度女性学 Inst.主催の定例研究会では、「異性装研究の現在」と題し、立命館大学文学部辻浩和氏、国際日本文化研究センター機関研究員（本学非常勤講師）田村美由紀氏をお迎えし、それぞれの専門分野からご報告いただきました。

辻氏は、「日本中世の芸能と異性装—女装を中心に—」というタイトルで、日本中世史の立場から、芸能における異性装の問題について報告されました。田村氏は、「サバイバルのための異性装—装われる〈性〉のゆくえ—」というタイトルで、日本近現代文学の立場から、現代作家のテキストに立ち現れる〈性〉を装うことの可能性について読み解かれました。

二本のご報告は、男女二元論を含めた我々の「常識」にゆさぶりをかけるジェンダー研究のするどい切れ味を実感することができる刺激的な内容でした。最先端のジェンダー研究に接し、当日は活発な議論が展開されました。本特集は、当日のご報告を原稿化したものです。どうぞご味読ください。

